

磐田市平和祈念式「平和への想い」

私は今回、平和について考えを深めるために、広島平和記念式典派遣事業に参加させていただきました。

私たちが生きている現在の日本には、戦争はありません。そのため、戦争がどれほど恐ろしく、過酷で悲惨なものだったのかを知りません。私にとって、戦争とは社会の授業で学ぶ「一つの歴史」でしかなく、今の平和で穏やかな毎日を当たり前のものだと感じていたのです。

しかし、派遣事業に参加し、広島に原子爆弾が投下されて罪のない大勢の人々の尊い命が失われたこと、そしてその後も、後遺症に苦しむ人々がいることを学び、戦争の残酷さを痛感しました。私には、あのような悲惨な光景が、八十年前の広島で現実起きていたとは、今でも信じられません。広島平和記念資料館では、当時の悲惨な街の様子や、熱線と放射線によって変わり果てた人々の姿、そして遺品とともに遺族の方々の悲痛の叫びが展示されていました。たった一発の原子爆弾で十四万人もの尊い命が奪われ、その後も放射線による影響で大勢の方が命を落とし、美しい景観を誇っていた広島は一瞬にして更地となりました。

私は遺族の方々の魂の叫びに胸が締め付けられました。想像してみてください。今朝まで自分のそばで笑っていた大切な人が、たった一つの爆弾によって帰らぬ人となり、二度と会えなくなってしまうのです。これほど切なく辛い出来事があるのでしょうか。もし自分が遺族の立場だったら、絶対に耐えられません。

私はこれまで、平和とは「人々が一生を幸せに暮らせること」だと考えていました。しかし、広島平和記念式典に参加し、原爆ドームで見た悲惨な光景から、平和とは「一人ひとりの自由と尊厳が守られること」だと考えるようになりました。すべての人が当たり前のように人権を持ち「ここにいていいんだ」と居場所を得られることこそが幸せの土台だと気づいたからです。

現在の日本が平和である一方で、今この瞬間も世界のどこかで戦争が起きています。たくさんの人々の温かな家庭や職場が壊れ、そして尊い命が失われ続けていることに、心が押しつぶされるような苦しさを感じます。以前の私なら、ニュースを見ても「かわいそうだな」と同情するだけで、どこか他人事のように感じていたかもしれません。しかし今の私は、当時の広島の悲惨な状況を想像し、過酷な状況下で苦しんでいる人々の姿に思いを馳せることができると思います。

これからの時代、私たちは、「二度と戦争を起こしてはいけない」という人々の思い、そして平和の尊さをしっかりとこの胸に刻み、学びを未来へ活かせるような行動を心がけていきます。

令和8年8月15日

代 表 石原 蒼空（磐田市立竜洋中学校）